

# 北沢の不法投棄の 解決に向けて(20)

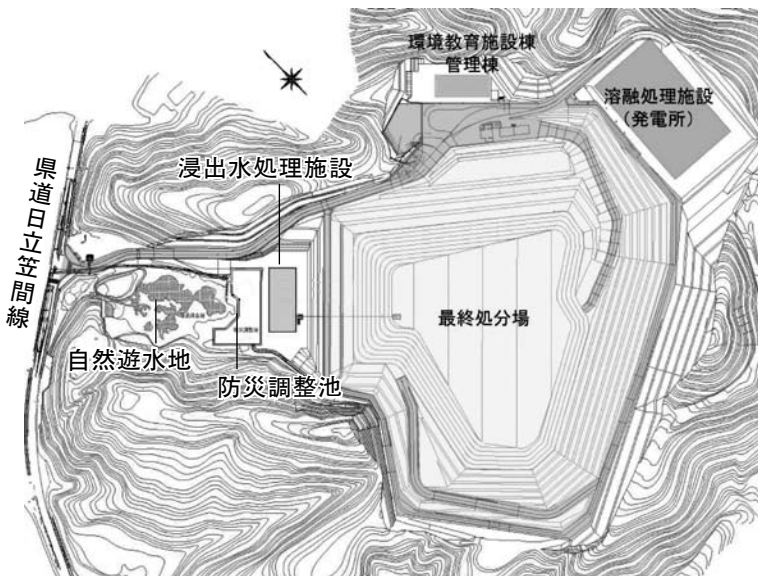
今回は、町民などを対象に実施している先進地視察先の1つである、茨城県笠間市の「エコフロンティアかさま」について、2回に分けてお知らせします。

茨城県では、廃棄物の適正処理を促進するために、(財)茨城県環境保全事業団が設立されています。

この事業団は、廃棄物の最終処分場の安定確保と廃棄物による環境汚染の防止対策等の支援を行うことが使命となっていますが、近年、県内3カ所の産業廃棄物管理型最終処分場の残余容量が少なくなってきたことから、「エコフロンティアかさま」の建設に至りました。

施設は笠間市の県道日立笠間線沿いの採石場跡地に3カ年かけて建設され、平成17年8月に供用を開始しました。施設の全体面積は、28.6ha、埋め立て面積は、9.8ha、埋め立て容量は約240万m<sup>3</sup>となっています。(なお、馬頭最終処分場は、全体面積が約78ha、埋め立て面積が約6.1ha、埋め立て容量が約80万m<sup>3</sup>

で埋め立て容量は「エコフロンティアかさま」の約1/3です。また、全体の面積が広いのは、緩衝緑地帯を含めた「里山」として、保全する区域が広く確保されているため



エコフロンティアかさま

です。「エコフロンティアかさま」の主な施設は、管理棟、埋め立て地、浸出水処理施設、溶融処理施設、防災調整池、自然遊水地などです。埋め立て対象廃棄物は、茨城県内の産業廃棄物(無機性汚泥、鉄さい、金属くず、ガラス、陶磁器くず、がれき、燃え殻、ばいじん等)と、茨城県内市町村の一般廃棄物の焼却灰・不燃残渣ごんざなどになっています。受け入れ前に事前調査を行うなど受け入れ管理

を徹底し、不適切な廃棄物の搬入を防止しています。また、笠間市の一般廃棄物などについては、溶融処理施設で溶融し、\*スラグなどとして減量化してから埋め立てています。

今回は、各施設の概要についてお知らせします。

\*スラグとは、高温で焼却灰等を溶融した結果、生成されるガラス質の固化物を言います。

## 最終処分場視察の実施

町と県は町民の皆さまに実際の処分場を見ていただき、処分場がどんなものかを理解していただくため、最終処分場の視察を実施します。

### ○視察先

埼玉県環境整備センター (埼玉県寄居町)  
エコフロンティアかさま (茨城県笠間市)  
その他、要望の施設

### ○対象者

那珂川町に住所を有する団体・グループ

### ○申し込み

環境整備対策室 ☎ 0287 - 92 - 1110

### ○実施期日

申し込み団体等と調整のうえ決定します。

## 相談窓口の開設

馬頭最終処分場について、町民の皆さんの疑問にお答えし、ご意見やご要望をお伺いするため、県と共同で相談窓口を開設しています。

相談日時	毎週水曜日(当分の間)	午後1時～午後6時
場所	役場本庁2階	第3会議室
問い合わせ	県 馬頭処分場整備室	☎ 028 - 623 - 3227
	町 環境整備対策室	☎ 0287 - 92 - 1110



## 「なぜ、那珂川町の小学校で英語学習？」

②変化の対応育成——那珂川町の児童は比較的に保守的です。周りの世界が次々に変化しているにも関わらず、那珂川町の児童はワンパターンに落ち着いて、変化に対応しづらい性格があるのではと感じます。もちろん、町内の小学校はそれぞれの対策をとっています。英語学習を通して、児童は普段と違った先生・学習内容・授業の進み方・活動内容で柔軟性を育てることは有意義なことと思います。

③英語語学力の基礎作り——中学校の英語はどこの日本の子どもでも通過しなければならない科目です。重点はこの数十年で「文法訳読法」から「コミュニケーション法」に移り変わっていますが、いずれにしても将来がかかっている高校入試の大切な科目の一つです。児童は中学校に入学する前に、すでに英語に関して印象と基礎ができています。以前、那珂川町の児童が小学校を卒業する際に実施した調査で「英語が難しい」や「英語がきらい」と回答した児童が多かったのですが、最近では中学校で英語を勉強するのを「楽しみです」と答える児童が増え、「きらい」と答える児童がほとんどいなくなりました。

我々大人は英語学習に関して、さまざまな思い出と意見をもっていますが、最終的にこれは児童のためになるかどうかを判断する責任があります。将来に備える知識を児童に伝達するのが我々の世代の義務だと思います。やはり、子どもたちは那珂川町の宝物です。

平成19年度に「那珂川町立小学校の英語学習研究会」が設置され、将来の小学校英語学習のあり方を研究しています。その背景にある大きな疑問に答えなければいけません。「なぜ、那珂川町の小学生に英語を教えますか？」さまざまな意見がありますが、私の立場から言えば、たくさんの方の価値があり、もちろん私は英語学習に賛成しています。次の3つの私の考えを述べたいと思います。

①コミュニケーション術の育成——毎年、私はいくつかの小学校の発表会を見に行きます。児童たちは立派に発表ができますが、これは日常の授業とは異なります。英語の時間に関わらず、国語や算数では発表ができない児童が多いと聞きました。しかし、英語学習ではグループや個人の発表が当然なことです。普段の授業では声を出さない児童が英語の時間では声を出したりすることがあるとも担任に聞きます。このコラムで前に紹介しましたが、東北の大学で、福島県内の英語推進小学校の児童を調査したところ、国語力は低下せず上がったという研究結果も出ています。私にとって、「国語」が「英語」よりもはるかに大切な教育と思いますが、片方を上げるために片方が下がるとは思いません。

## トマト黄化葉巻病の封じ込めにご協力ください

トマト黄化葉巻病は、九州・東海地方のトマト農家に大きな被害を与えています。H18年1月には栃木県でも発生が確認されています。

この病害はタバココナジラミという小さな虫が媒介しますので、この虫の防除が最重要です。



写真上：トマト黄化葉巻病の典型的な葉巻症状  
右：タバココナジラミ(体長0.8mm程度)

露地野菜・花きはタバココナジラミの夏期における繁殖源となりますので、畑周辺の雑草を含めて防除をお願いします。

また、家庭菜園の発病トマトは、重要な伝染源となりますので、発病株はタバココナジラミとともにすみやかに虫ごと透明のビニール袋に入れ、日光に当てて高温にして虫を死滅させてから土に埋めてください。

ご協力をお願いします。

問い合わせ：南那須農業振興事務所 ☎ 0287-82-2661

## 麻しん(はしか)の流行について

南関東地域で麻しん(はしか)患者が多数発生し、県内でも麻しん患者が確認されています。

麻しんは、感染力が非常に強く、患者と直接接触していなくても、空気感染を起こします。また、感染後約10日後に発症し、初期症状は、風邪に似ています。

麻しんは、4～6月ごろに流行し、今後、関東一円での流行が懸念されます。また、発症した後の特別な治療法はなく、症状に応じて治療を行う対症療法が行われます。

予防対策としては、ワクチン(予防接種)が有効です。ワクチン未接種の方で今までに麻しんにかかったことのない方は、主治医と相談し、予防接種を受けましょう。

### 問い合わせ

県北健康福祉センター ☎ 0287-22-2679

馬頭健康管理センター ☎ 0287-92-1188